

名古屋港管理組合議会 令和7年3月 本会議質疑・一般質問概要



令和7年3月定例名古屋港管理組合議会が開かれ、3月26日（水）に質疑及び一般質問が行われました。質問・答弁の概要は次のとおりです。

○ 朝日将貴議員（県・自民）

国際貿易港としての名古屋港のコンテナ取扱機能強化について

ア 名古屋港におけるコンテナターミナルの現況と課題について、聞きたい。

答弁 名古屋港は、飛島ふ頭と鍋田ふ頭にコンテナターミナルを有し世界115の港と定期航路で結ばれており、毎週約80隻のコンテナ船が入港している。本港の国際競争力を強化するためには、大型化が見込まれるコンテナ船や取扱貨物量の増加に対応することが求められていることから、岸壁の機能強化とともに、コンテナターミナルの生産性向上が必要になっている。多様化する利用者ニーズを的確に捉え、柔軟なターミナル運営を図ることが重要であると認識している。

イ 国際競争力強化に向けたコンテナ取扱機能強化の取組について、聞きたい。

答弁 国際競争力強化に向けた各コンテナターミナルの機能強化としては、NCBでは、船舶大型化等対応のため、岸壁の水深増深や耐震化工事が進められている。また、飛島ふ頭南側では、ターミナルオペレーションのシステム開発が国の制度を活用して進められており、本組合も必要な支援を行っている。一方、鍋田ふ頭では、遠隔操作RTG40基の導入が国の補助および本組合の支援も受け進められている。

港湾利用者サービスの向上を図るため、道路整備等の要望や、東南アジア航路拡充に向けたポートセールスの強化に取り組んでいる。さらに、脱炭素社会の実現に向け、「名古屋港港湾脱炭素化推進計画」を作成し、水素燃料対応荷役機械などの導入を促進する補助金制度を創設している。

○ 島孝則議員（県・民主）

(1) 脱炭素社会への取組について

ア 「名古屋港港湾脱炭素化推進計画」の目標達成に向けた取組について、聞きたい。

答弁 本組合では、姉妹港であるロサンゼルス港で進められている港湾荷役機械等の

水素燃料電池化の取組などを参考にしながら、愛知県や名古屋市、民間事業者と連携し、コンテナターミナルの脱炭素化に向けた実証事業の検討を進めている。また作業船を対象とした陸上電力供給設備の整備について、令和7年4月の供用開始を予定している。今後は、「名古屋港港湾脱炭素化推進協議会」等を活用し、官民一体となって、カーボンニュートラルポートの形成に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献していく。

イ 新舞子マリンパーク風力発電施設の継続に向けて行っている風況調査及びサウンディング型市場調査の状況について、聞きたい。

答弁 風況調査は、風力発電の継続に向けた検討を進める上で必要な風況データを取得するものであり、現在、順調にデータを取得している。さらに、民間事業者の参入意欲の向上や事業実現に向けた課題抽出のため、令和6年12月に対話によるサウンディング型市場調査を実施した。風力発電の継続のための早期の方針決定に向けて、引き続き検討を進めていく。

(2) 下水道管の破損による影響について

埼玉県で発生したような規模の陥没は、名古屋港の臨港道路で起こり得る可能性があるのか、聞きたい。

答弁 名古屋港の臨港地区内は、一部の緑地を除いて浄化槽による汚水処理がされているため、下水道管は埋設されていない。臨港道路における埋設管については、路面下に雨水排水管を整備しているが、最大で直径2メートル程度で深いところでも地下3メートル程度の深さにあり、また日常的な点検にも努めているため、今回発生したような規模の陥没が起こる可能性は低いと考えている。

○ 再質問

名古屋港の臨港道路における陥没対策をどのように進めているのか、聞きたい。

答弁 日常管理として、原則1週間で主要な臨港道路を巡視し舗装面の劣化状況等について確認している。また、定期点検として、3年に1度の頻度で、舗装のひび割れ、わだち掘れ等の変状の把握を行っている。空洞による道路陥没への対策としては、地中レーダー探査機による路面下空洞調査を行っており、緊急輸送道路は3年に1回、それ以外については5年に1回の頻度で調査を行っている。調査の結果、陥没につながるような空洞が発見された場合は、緊急工事などの対応を早期に実施している。

○ 山田たかお議員（県・自民）

外航クルーズ船の入港と水族館との連携について

ア 入港するクルーズ船はどこの国のものが多いのか、聞きたい。また、ガーデンふ頭に入港する外航クルーズ船が増えている理由を聞きたい。

答弁 令和6年に入港した外航クルーズ船29隻のうち、15隻が欧米系のクルーズ船であり、令和7年の入港予定の外航クルーズ船43隻のうち、34隻が欧米系のクルーズ船となっており、前年に比べ入港隻数が飛躍的に伸びているまた、ガーデンふ頭に入港するクルーズ船が増えている理由は、訪日クルーズ旅客数自体が増えているという背景があり、さらに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の完了に伴い、令和7年はガーデンふ頭に多くのクルーズ船が入港することとなった。

イ 外航クルーズ船の乗客を水族館に誘導するための連携方策について聞きたい。

答弁 水族館との連携をさらに高め、観光案内テントに水族館を視覚的にアピールするポスターの掲示などをより強化し、効果的に行っていく。また、例年行っているクルーズ船社に対するポートセールス時においても、より積極的に水族館をPRしていく。水族館においては、デジタルツールを活用した多言語化を進めるなど、クルーズ船受入事業との連携を高めていく。

○ 政木りか議員（県・自民）

ガーデンふ頭再開発について

ア 「ガーデンふ頭再開発基本計画」の事業コンセプトにあるテクノロジーの具体的イメージについて、聞きたい。

答弁 デジタル技術を活用したコンテンツの提供による新たなにぎわいの創出や、新モビリティによる埠頭内の回遊性の向上、ほかのエリアとのアクセス性の向上、新しいテクノロジーを取り入れた名古屋港水族館をはじめとする既存機能との連携により、魅力的な空間とサービスを提供することをイメージしている。

イ アジア・アジアパラ競技大会により向上するポテンシャルについて、聞きたい。

答弁 ガーデンふ頭が選手団の宿泊拠点として調整されていることから、大会の成功によりガーデンふ頭への国内外からの注目度は格段に上がり、広く魅力が発信され则认为している。高まるポテンシャルをうまく再開発につなげていくために、具体的な宿泊計画の内容が示された際には、再開発の条件などを再整理し、より多くの事業者からの提案につながるよう、開発主体の公募にしっかりと取り組んでいく。

ウ ガーデンふ頭と水族館との連携、名古屋港におけるアジア・アジアパラ競技大会のレガシーをどのように考えているのか、聞きたい。

答弁 水族館と連携した飲食物販機能の拡充や、デジタル技術や新モビリティを活用した魅力的な空間創造によって、水族館とのさらなる相乗効果が図れるよう取り組んでいる。レガシーについては、今後、具体的に示される宿泊計画の内容を確認した上で、ハード・ソフトにわたり、どのようなレガシーを引き継ぐことができるのか、関係者とともに取り組んでいく。

○ 小出昭司議員（市・自民）

中川運河の堀止緑地及び堀止の水面におけるアジア・アジアパラ競技大会に向けた取組について

中川運河の堀止緑地、そして堀止の水面において、アジア・アジアパラ競技大会の開催に向け、どのような整備を進める考えがあるのか、聞きたい。

答弁 堀止地区は、名古屋市と共同で策定している「中川運河再生計画」の中で、にぎわいゾーンに位置付けており、名古屋港管理組合としても緑地整備のほか、プロムナード整備に取り組んでいる。また、東側では名古屋市による公募がなされ、水辺空間を生かしたホテルなど、令和8年春の開業に向けて進められている。この開発を契機に、本組合が所管する西側の緑地は、みなと緑地PPPの活用を念頭に、緑地の高質化に向けて検討を進めている。また、アジア・アジアパラ競技大会後も、ライトアップや噴水の設置等について、共同で取り組む名古屋市とともに検討していく。